



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 499号

2016. 10. 11

発行責任者

岸田義典

目次

2016

- SIMA ASEAN 展及びタイ農業工学研究所、カモル・トラクタ会社訪問の報告
新農林社 代表取締役社長 岸田義典 2
- EVENTS CALENDER 8

Vol. 9

SIMA ASEAN 展及びタイ農業工学研究所、カモル・トラクタ会社訪問の報告

(株)新農林社
代表取締役社長
岸田 義典

9月8日～10日、タイ、バンコク、IMPACTエキシビション&コンヴェンション・センターで第2回SIMAアセアン展が行われた(主催=フランス見本市協会)。

新農林社は、ツアーを組んで参加し、あわせてタイ農業工学研究所、またタイのトラクタ会社であるカモル・トラクタを訪問した。

以下にそのもようを報告する。

SIMA ASEAN 展

9月8日～10日、タイ、バンコク、IMPACTエキシビション&コンヴェンション・センターで第2回SIMAアセアン展が行われた(主催=フランス見本市協会)。来場者数は40か国からおおよそ1万3千人。出展は、23か国から214社あり、中国からの出展が最多であった。イタリアからはイタリア農機工業会が、フランスからもフランス農機工業会が、韓国からはやはり韓国農機工業会が、台湾からも台湾農機工業会が、それぞれ会員企業をまとめて意欲的に出展していた。日本からは、(株)クボタ、ヤンマー(株)(ともに現地代理店を通じて)、(株)丸山製作所、(株)やまびこ、松井ワルターシャイド(株)、フジイコーポレーション(株)、(有)ミネ、(株)フローラが参加した。会場の広さは、屋内1万平方メートルであった。

同展でもっとも目を引いた機械は、カセサート大学(Kasetsart University)の学生がデザインした田植機だった。ポット苗をぽんぽんと投げて植えるもので、田植機というよりは苗撒き機といったほうが適当かもしれない。まだプロトタイプの段階だったが、非常に独創的な発想で、その土地土地ならではの農業機械の開発、発展という点でおおいに期待の持てる展示だった。

第3回は、同会場で、2017年9月7日～9日にかけて開催される予定。

今回、新農林社は、ツアーを組んで参加。参加者

は、総勢10名であった。SIMAの展示会責任者であるヴァレリー・ロブリー(Valerie LOBRY)氏とインタビューしたがこれからASEANの農機需要が伸びて行くなかでじっくりと10年先を見てこの展示会を育てて行くつもりであると述べた。筆者はその他アグリテクニカやEIMAなどがアジアで同種の展示会を企画しているが合理的な調整が必要であると指摘した。会場には伸びる需要を反映して全体的に明るい雰囲気にもまれていた。タイ現地メーカーのコンバインや自走防除機械など日本では見られない出展もあった。



カセサート大学の田植機